



## 富士山測候所の歴史

西暦 元号	できごと
1880 明治 13	<b>初めての本格的な気象観測</b> 東大物理学科の米国人、トマス・メンデンホール(Thomas Carwin Mendenhall 1841-1924) が、田中館愛橋らとともに山頂に3日(4日?)間滞在。気象観測や重力測定、天体観測や測量など、各種実験。このとき、標高3778メートルと算出。
1883 明治 16	<b>御殿場口の原型完成</b> 「富士山東表口」が地元によって拓かれる。
1889 明治 22	<b>気象観測 (その3)</b> 富士山頂久須志岳の石室で中村精男ほか2名が、山中湖畔では近藤久治朗が38日間、初めて正式な気象観測開始。
1895 明治 28	<b>定期的な夏季気象観測の開始</b> 中央気象台が久須志岳で夏季富士山頂気象観測を続ける。
1895 明治 28	<b>冬季気象観測の試み</b> 野中至が私財を投じて山頂剣が峰に観測所用建物を建設し、10月から初の冬季気象観測を開始。しかし、至・千代子夫人共に病氣となり、越冬ならず12月に観測継続を断念し下山。 
1927 昭和 2	<b>佐藤小屋完成</b> 佐藤が東京自動車学校鈴木靖二校長の寄付を得て観測小屋「佐藤小屋」を山頂東安河原に完成。
1930 昭和 5	<b>佐藤の冬期観測</b> 1月-2月にかけ強力梶房吉の協力を得て山頂滞在観測。
1932 昭和 7	<b>通年観測開始</b> 第二極年国際協同観測の一つとして山頂東安河原に「中央気象台臨時気象観測所」を設立、一年限りの予算で観測を開始。
1934 昭和 9	<b>観測所廃止を免れる</b> 第二極年観測後の富士山頂の観測所が資金難で閉鎖されようとしていたのを、三井報恩会の援助により継続が決定。  『富士山頂の観測所閉鎖の難を免れる 三井報恩会から7千円』 *これを伝える東朝新聞の記事(昭和9年8月19日) 
1936 昭和 11	<b>正式名称がつく</b> 「中央気象台富士山頂観測所」が正式名称となり、山頂剣が峰に新庁舎を建設し移転。
1937 昭和 12	<b>3号庁舎まで完成</b> 東安河原の旧庁舎を剣が峰に移設し、3号庁舎とした。
1940 昭和 15	<b>4号庁舎完成</b>
1942 昭和 17	<b>太郎坊避難所設置</b> 御殿場口太郎坊に山頂勤務支援のための避難所を設置。
1944 昭和 19	<b>送電始まる</b> 逓信院は東安河原の観測所非難所を東京―八丈島間の無線中継所として送電線を布設。観測所にも分電した。

西暦 元号	できごと
1949 昭和 24	<b>名称変更</b> 「富士山観測所」に改名。
1950 昭和 25	<b>「富士山測候所」に改名。</b> 測候所に昇格
1959 昭和 34	<b>伊勢湾台風</b> 9月22日に発生した台風15号(「伊勢湾台風」)は、死者・行方不明者5千人以上という未曾有の大被害をもたらす。日本本土に近づく恐れのある台風の位置を早期に探知することが社会的要請となり、富士山レーダー設置の契機となる。 
1963 昭和 38	<b>レーダー設置決定</b> 予算がつき、機器の製作、レーダー塔の建設、庁舎の改装を開始。
1964 昭和 39	<b>レーダー工事完成</b> 気象レーダーが完成し、実用化試験局として運用開始。この建設工事のドキュメントは、NHK総合テレビ番組『プロジェクトX〜挑戦者たち〜』の第1回「巨大台風から日本を守れ 富士山頂・男たちは命をかけた」(2000年3月28日放映)でとりあげられ、大きな反響を呼ぶ。 
1965 昭和 40	<b>正式運用開始</b> レーダーが陸上標定局の正式承認を受ける。東京で式典、10円の記念切手発行。
1970 昭和 45	<b>新庁舎建設工事開始</b> レーダー塔及び4号庁舎(電源室)を除きすべて取り壊し新しい2号庁舎及び3号庁舎の建設に着手。
1973 昭和 48	<b>新庁舎完成</b> 工期4年をかけて2号庁舎・3号庁舎が完成。新幹線車両をモデルにしたという2階建てで、外壁はアルミニウム合金製。 <b>送電線更新</b> 山頂の電力使用量増大に対応するため、新庁舎の改築に合わせ、地下埋設ケーブル及び架空線からなる総延長約10kmの送電線路を特別高圧6.6KVに更新。 
1978 昭和 53	<b>気象レーダー更新</b> デジタル処理を採用。
1984 昭和 59	<b>気象テレメーター更新</b> 御殿場基地事務所に山頂気象観測データ監視表示装置が設置される。
1985 昭和 60	<b>デジタル化レーダー本運用</b> 地形エコー除去機能の追加、カラー画像やデジタルデータの伝達など。
1997 平成 9	<b>富士山レーダー廃止決定</b> 気象衛星の発達により台風の接近を観測できるようになったことと、代替レーダーが静岡県牧之原台地と長野県の車山の2カ所に設置されることなどにより、富士山でのレーダー観測の必要性がなくなり、廃止を決定。
1999 平成 11	<b>富士山レーダー廃止</b> 11月1日をもって運用を終了。その後、レドームは解体撤去され、富士吉田市の体験学習施設富士山レーダードーム館で永久保存される。
2000 平成 12	<b>IEEEマイルストーンに富士山レーダー認定</b> IEEE(米国電気電子学会)が電気・電子技術やその関連分野における歴史的偉業に対して認定するIEEEマイルストーンを受賞。
2003 平成 15	<b>富士山測候所の無人化を発表</b> 平成16年夏季をもって(夏期以外)無人化することを気象庁が発表。
2004 平成 16	<b>富士山測候所の無人化</b> 10月1日をもって1932年(昭和7年)から続いた72年間の有人観測に幕。
2007 平成 19	<b>NPO法人富士山測候所を活用する会への3年貸与決定</b>
2008 平成 20	<b>「富士山特別地域気象観測所」へ移行</b> 「富士山測候所」は、近年の観測技術、通信技術の発達等を踏まえた業務の効率的運営の観点から、平成20年10月1日をもって「富士山特別地域気象観測所」となる。 

